

「大淫婦バビロン=自由の女神」である。異論は認めない。（「[日本の菩提を弔う](#)」）

(炎が金色な件に気づいて8/5に4つ目の理由を若干改変・追記しました)

ちょっと前のエントリーにちらりと書いたのだが、聖書のヨハネの黙示録に「大淫婦バビロン」と呼ばれる存在がある。

第17章に出てくるのだが。

それから、七つの鉢を持つ七人の御使のひとりがきて、わたしに語って言った、「さあ、きなさい。多くの水の上にすわっている大淫婦に対するさばきを、見せよう。

地の王たちはこの女と姦淫を行い、地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔いしれている」

御使は、わたしを御霊に感じたまま、荒野へ連れて行った。わたしは、そこでひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。その獣は神を汚すかざかざの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあった。

この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと自分の姦淫の汚れとで満ちている金の杯を手に持ち、

その額には、一つの名がしるされていた。それは奥義であって、「大いなるバビロン、淫婦（いんぶ）どもと地の憎むべきものらの母」というのであった。

そう、この大淫婦こそがあの自由の女神像に象徴されるアメリカである。

と俺は考えているのである。



ニューヨークの自由の女神像。画像は [wikipedia](#) より

では、何故自由の女神=大淫婦バビロンと結論づけたのか。

それには以下の点が合致したという事を理由に挙げよう。

1. 多くの水の上

世界中の海と航路で繋がるニューヨーク港の**リバティ島**という小さな小島に立つ自由の女神像は、まさに**多くの水の上にある**と言えよう。

2. 7つの頭

大淫婦バビロンの乗る「獣」の7つの頭とは七つの超大国の首脳を意味し、つまり G7 である。G7 の頂点に立つアメリカ(の裏支配者) を意味する。あるいは G8 として考えてその中からアメリカ自身を引いて7つの頭とも考えられる。

3. 紫と赤の衣 (麻布と紫布と緋布)

星条旗は白と青と赤である。

その青は純粋な青ではなく若干紫がかった紺色である。

つまりこれはそれぞれ麻布、紫布、緋布に該当する。

4. 金の杯を手を持っている

自由の女神が手にしているたいまつは杯にも見える。

ついでに言えば、その「たいまつ」の炎は何故か金色に塗装されている。

5. 像を贈ったのがフリーメイソン

1884年にフランスのフリーメイソンからアメリカのフリーメイソンに贈られたのがこの像である。ちなみにアメリカの建国は公式に1776年となっている。1776は111のきっかり16倍である。

結論を言おう。

自由の女神像は聖書の預言を実現するために贈られたものであり、アメリカが神に裁かれる事は建国当初から決まっていた。**悪役を演じ、預言を実現するために作り出された生贄の人工国家**がアメリカであったのだ。